

# 六供遺跡群 No.8

前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 4. 12

前橋市教育委員会



六供遺跡群No.8 A区全景（東から）



六供遺跡群No.8 B区全景（西から）



B区基本土層（東から）



W-2号溝出土の石製模造品  
左：頁岩製、右：滑石製

## 例　　言

- 1 本報告書は前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う前六供遺跡群 No. 8埋蔵文化財発掘報告書である。
- 2 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	六供遺跡群 No. 8
調査場所	前橋市六供町 299-2、299-3、299-4、300-1、300-3、306-1、305-2、312-1
遺跡コード	26 H 57
発掘・整理担当者	前田和昭（技研コンサル株式会社）
調査員	岡野 茂
発掘調査期間	平成 26 年 8 月 4 日～平成 26 年 8 月 29 日
整理・報告書作成期間	平成 26 年 9 月 1 日～平成 26 年 10 月 31 日
- 3 本書の原稿執筆は I を藤坂和延（前橋市教育委員会）、III を前田が、他を岡野が担当した。
- 4 発掘調査および整理作業参加者は次のとおりである。

飯島冬子 上沢公一 棚原義久 大川明子 小島京子 高野フミ子 高橋一巳 田部井美砂子 矢内朝夫  
吉井正宏 福島様子
- 5 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 6 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

## 凡　　例

- 1 採図中に使用した北は座標北である。
- 2 採図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
- 3 遺構名称は、堅穴住居跡：H、溝：W、井戸：I、土坑：D、ピット：Pである。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構 堅穴住居跡・井戸・土坑・ピット・その他	・・1/60 全体図	・・1/400		
遺物 土器・石製品	・・1/3、1/4	鉄製品	・・1/2 古銭	・・1/1
- 5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。
- 6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構 焼土範囲	■	灰範囲	■	遺物 須恵器（還元焰）	■	施釉	■
---------	---	-----	---	-------------	---	----	---
- 7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間 B 軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）、  
Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：6世紀初頭）、As-C（浅間 C 軽石：3世紀後葉～4世紀前半）

## 目 次

卷頭図版 1	
卷頭図版 2	
はじめに	
例言・凡例	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 調査の方針と経過	
1 調査範囲と基本方針	5
2 調査経過	5
IV 基本層序	5
V 遺構と遺物	
1 A区	
(1) 壁穴住居跡	7
(2) 溝	7
(3) 井戸	8
(4) ピット	8
2 B区	
(1) 溝	8
(2) 井戸	9
(3) ピット	9
VI 発掘調査の成果と課題	14

## 挿図目次

Fig.1 遺跡の位置	1
Fig.2 前橋の地形	2
Fig.3 遺跡位置及び周辺遺跡分布図	3
Fig.4 調査範囲図	5
Fig.5 基本層序	5
Fig.6 全体図	6
Fig.7 A区H-1号住居跡、W-1号溝、I-1・2号井戸	10
Fig.8 A区W-2~4号溝、A区P-1号ピット、B区I-1・2号井戸	11
Fig.9 B区W-1・2号溝、B区I-3号井戸、B区P-1号ピット	12
Fig.10 出土遺物	13

## 表目次

Tab. 1	周辺遺跡一覧表	.....	4
Tab. 2	出土遺物観察表	.....	9

## 写真図版目次

PL. 1	A区表土掘削（西から） A区作業風景（南東から） A区遺構検出状況（東から） A区遺構検出状況（北西から） B区排水作業（西から） A区調査区全貌（北西から） B区調査区全貌（東から） B区I-3遺構検出状況（南から）
PL. 2	A区H-1断面（東から） A区H-1全景（南から） A区H-1 P.1断面（南から） A区H-1 P.1全景（南から） A区W-1断面（南から） A区W-2断面A（南東から） A区W-2断面B（南東から） A区W-1・2全景（北西から）
PL. 3	A区W-3・4断面（東から） A区W-3遺物出土状況（南東から） A区W-3・4全景（西から） A区基本土層（東から） A区I-1断面（南から） A区I-2断面（南から） A区I-1・P-1全景（南から） A区I-2全景（南から）
PL. 4	B区I-1断面（西から） B区I-2断面（北東から） B区I-1全景（西から） B区I-2全景（西から） B区I-1底面確認（南から） B区基本土層（東から） B区W-2全景（北から） B区P-1全景（南から）
PL. 5	B区W-1断面（北から） B区W-1全景（北から） B区作業風景（北から） B区I-3全景（北から） B区I-3全景（南から） B区I-3断面B（南から） B区I-3断面B（北から） B区I-3水口状底部確認（北から）
PL. 6	出土遺物

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴い実施された。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成 26 年 6 月 23 日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理第一課）より前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成 26 年 8 月 1 日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で発掘調査・整理業務委託契約を締結し調査を開始した。遺跡名称「六供遺跡群 No.8」（遺跡コード：26 H - 57）の「六供遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「No.8」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。



Fig.1 遺跡の位置

## II 遺跡の位置と環境

### 地理的環境

六供遺跡群No.8は前橋市街地の南方にあり、JR 前橋駅の南へ約1.1Kmに位置する。周辺には前橋・玉村線や前橋・長瀬線といった主要な幹線道路が整備され、それに伴う区画整理事業による再編が行われている。この事業内の前橋市六供町 299-2 他に本遺跡が所在する。

本遺跡は前橋台地上の東方、利根川左岸に位置し、標高は約 97.8 m から 97.1 m で、北西から南東へ緩やかに傾斜している。前橋台地は浅間山噴火に起因する火山泥流堆積土と、それを被覆する水成体積層から成る洪積台地で、東は赤城山南麓斜面との間に形成されている広瀬川低地帯と直線的な崖で区画され、北西には榛名山麓東南域に広がる相馬ヶ原扇状地の端部が迫っている。

### 歴史的環境

**縄文時代** 遺構は検出されていないが、六供中京安寺遺跡（15）、六供東京安寺遺跡（16）、櫛鳥川端遺跡（22）、公田池尻遺跡（24）などから早期・中期・後期の土器片や石器がわずかであるが出土している。

**弥生時代** 遺跡の数は非常に少なく、櫛鳥川端遺跡（22）で中期の再葬墓、後期の竪穴住居跡が検出されている。

**古墳時代** 遺跡数は飛躍的に増加している。古墳時代前期の

遺跡は、住居跡では本遺跡の周辺において公田東遺跡（23）を南城とし、北は南町市之坪遺跡（13）が確認できる。また、広瀬川西岸では後閑団地遺跡（35）で検出されている。水田は、As-C 混土下水田が公田東遺跡、公田池尻遺跡で検出されている。古墳時代後期の遺跡は、住居跡では本遺跡の周辺において六供遺跡群 No. 7（2）の近隣遺跡や生川遺跡（12）南町市之坪遺跡が確認でき、県道 27 号線と端水川の交差する付近に位置する朝倉工業団地遺跡群（28）で検出されている。水田は、Hr-FA 下水田を六供下堂木 II 遺跡（8）、公田東遺跡、朝倉工業団地遺跡群で検出されている。墓域としては、広瀬川の右岸の自然堤防上に密集する古墳地帯が形成されており、この古墳群は朝倉・広瀬古墳群として知られている。しかし、後世の開墾や宅地造成により大半は未調査のまま削平され、現在では八幡山古墳（h）、天神山古墳（i）、亀塚山古墳、金冠塚古墳、経塚古墳などが当時の古墳群の面影を残している。

**奈良・平安時代** 本遺跡の周辺では、住居跡が六供下堂木 II 遺跡、六供下堂木 III 遺跡（9）、南町市之坪遺跡、六供中京安寺遺跡（15）が確認でき、広瀬川西岸の朝倉伊勢西遺跡（34）、後閑 II 遺跡（38）では住居跡の他に掘立柱建物跡が検出されている。水田は数多くの As-B 下水田が調査されており、条里型地割を確認できる。その水田跡は前橋市街南部から佐波郡玉村町方面まで及んでいる。また、旧利根川から引水を目的とした女溝（44）と呼ばれる灌溉用水道構が出現したのはこの頃の時期と考えられている。

**中世・近世** 屋敷に土塀を築き、漆をめぐらした館跡を環濠屋敷と呼び、それをいくつか集合した環濠遺跡群がこの時期に出現したと考えられている。その範囲は前橋市内から玉村町・高崎市方面の平坦地に集中している。



Fig.2 前橋の地形

城館施設としては厩橋城（前橋城）、宿阿内城（ケ）が知られている。近隣を流れる風呂川・矢田川は厩橋城のために作られており、旧利根川から引水し、上流では城や城下の生活用水、下流では灌漑用水として利用された。諸説あるが16世紀中頃に利根川は大氾濫を起こし、現在の流路へ変えた。

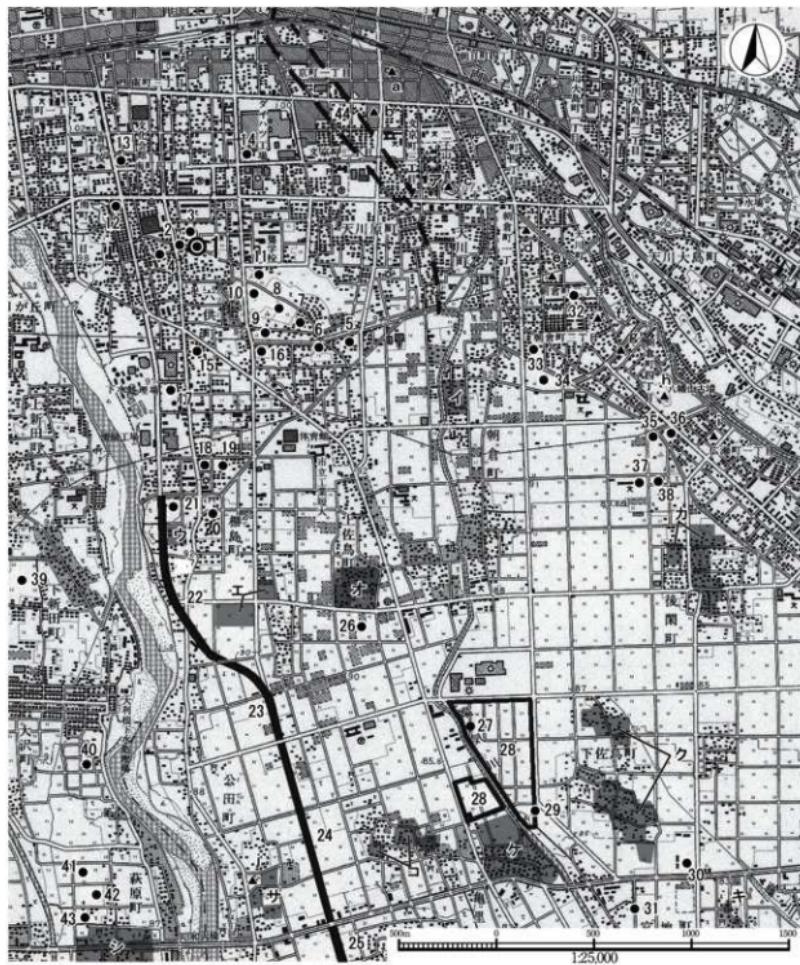


Fig.3 道路位置及び周辺遺跡分布図

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡の概要	番号	遺跡名	遺跡の概要
1	六供遺跡群 No.8	古墳時代：住居、蓄産・溝、井戸。	23	志田乳頭遺跡	縄文時代：陶器土器群。古墳時代：麻縄包済器より織機土製出土。土器群。FA T字型。奈良・平安時代：住居跡。As-C 墓土下-T-FA T字型。
2	六供遺跡群 No.7	縄文時代：中堅・上堅路。古墳時代：後期住居跡。近世：塹。	24	三田地区遺跡	縄文時代：有舌形遺跡。古墳時代：前中期住居跡。As-C 墓土下-T-FA T字型。奈良・平安時代：住居跡。As-B T字型。中世：居住。
3	六供遺跡群 No.6	古墳時代：後期住居跡。中・近世：溝。	25	龜屋平塚遺跡	古墳時代：FA T字型。奈良・平安時代：As-B T字型。中世：居住。
4	六供遺跡群 No.5	古墳時代：後期・前期住居跡。中・近世：溝。	26	下高野竹原山遺跡	奈良・平安時代：As-B T字型。
5	六供遺跡群 No.4	奈良・平安時代：As-B T字型。	27	下高森遺跡	古墳時代：後期住居跡。As-C 墓土下T字型。
6	六供遺跡群	古墳時代：後期住居跡。塹、塗。奈良・平安時代：As-B T字型。	28	御官山周辺遺跡群 No. 1 - 6	古墳時代：後期住居跡。FA - FP T字型。奈良・平安時代：住居跡。As-B T字型。
7	六供下笠木遺跡	奈良・平安時代：住居跡。As-B T字型。	29	河曲遺跡	古墳時代：後期住居跡。
8	六供下笠木遺跡群	古墳時代：後期住居跡。FA T字型。奈良・平安時代：住居跡。As-B T字型。中・近世：溝。	30	東郷遺跡	古墳時代：墓葬馬上。
9	六供下笠木遺跡群	奈良・平安時代：住居跡。As-B T字型。塹。	31	高進山中津跡	奈良・平安時代：As-B T字型。
10	六供下笠木遺跡群	奈良・土塁墓。	32	鶴山遺跡	奈良・平安時代：As-B T字型。
11	六供下笠木遺跡群 V	古墳時代：溝。奈良・平安時代：住居跡。As-B T字型。溝。	33	御宇割引遺跡	奈良・平安時代：溝。中・近世：溝。
12	生川遺跡	古墳時代：溝跡。後期住居跡。奈良・平安時代：住居跡。	34	朝香伊勢西道路 No. 1 - 2	奈良・平安時代：住居跡。撫立社建物。島、溝。奈良・平安時代：住居跡。
13	南町北之坪遺跡	古墳時代：塙跡。其周辺住居跡。奈良・平安時代：住居跡。	35	猪俣山後遺跡	古墳時代：前中期住居跡。As-C T字型。有舌形、塗。
14	文京町 No.1	奈良・平安時代：As-B T字型。	36	鶴山墓地	古墳時代：塹。奈良・平安時代：住区画。
15	六供中笠木今鹿遺跡	縄文時代：住居跡。圓柱建物。As-B T字型。塹、道路。	37	御園遺跡	遺跡なし。
16	六供東吉寺空寺遺跡	古墳時代：中堅・後期住居跡。石器。古墳時代：後期住居跡。古墳。昭和暮年。奈良・平安時代：住居跡。As-B T字型。中・近世：柱立社建物、塹。	38	我孫口山遺跡	古墳時代：後期住居跡。奈良・平安時代：住居跡。As-B T字型。中・近世：柱立社建物、塹。
17	中入門遺跡	奈良・平安時代：As-B T字型。	39	下高野中津跡群 I - II	奈良・平安時代：As-B T字型。中・近世：溝。
18	南京宮今遺跡	古墳時代：住居跡。	40	麻原山周辺遺跡	古墳時代：FA - FP T字型。奈良・平安・平安時代：As-B T字型。
19	都留守屋遺跡	古墳時代：住居跡。	41	麻原上・下丁田遺跡 I	古墳時代：FA - FP T字型。奈良・平安時代：As-B T字型。
20	足・櫛遺跡	古墳時代：住居跡。	42	麻原上・下丁田遺跡 II	古墳時代：FA - FP T字型。奈良・平安・平安時代：As-B T字型。
21	鷲森川遺跡群Ⅱ	古墳時代：後期住居跡。	43	道筋・築堤 - 下五丁田遺跡	奈良・飛鳥 - 下五丁田遺跡。古墳時代：FA - FP T字型。溝。中・近世：道路、築堤。
22	鷲森川遺跡群Ⅲ	縄文時代：熱帯文化土壤。打削石陣 - 石碑。生糞時代：内燃器。古墳時代：後期住居跡。As-C T-C 墓土下-T-FA - FP T字型。奈良・平安時代：As-B T字型。中・近世：火薬庫、溝。近世：島、御田松。	44	安瀬	道筋川周辺遺跡。1号女湯（西）As-B 墓土下以前、2号女湯（東）：中堅以前。

記号	古墳名	古墳の概要	番号	古墳名	古墳の概要
a	不二山古墳	6世紀後半。前方後円墳。全長約30m。規模小さいが二子山古墳の物似形。	f	御堂1号古墳	7世紀前半。円墳。大部分が破壊され現存はの全長で約36.5m。
b	セロウト古墳	7世紀後半。帆立式古墳。全長約365m。	g	御堂2号古墳	6世紀式古墳。墳丘が堆積されており時期・規格不明。
c	二子山古墳	6世紀中頃。前方後円墳。全長約104m。	h	八幡山古墳	4世紀後半。前方後円墳。全長約130m。
d	小日部遺跡	6世紀後半。円墳。墳丘の堆積が著しく現存部の全長で約83m。	i	天津山古墳	4世紀後半。前方後円墳。全長約129m。
e	朝倉2号古墳	4世紀後半。円墳。約23m。	j	下川路2号古墳	前方後円墳か。詳細不明。

記号	名称	所在地	存続期間	範・在惑者	遺跡・遺物	備考
ア	大坂遺跡	前橋市大坂町	-	-	板立社遺跡、塹	昭和56年一部発掘箇所（出土文書類）。
イ	朝霞御宿遺跡群	前橋市朝霞町	-	-	-	-
ウ	上郷山丘陵	前橋市上郷町	16世紀	牛込氏	-	-
エ	福井尾敷・塙	前橋市牛込町	-	福井氏	塙、土器。JPI	元至徳から西面へ移る。
オ	中原尾敷	前橋市牛込町	-	-	塙、土器。JPI	条至徳に渡りかわせがある。
ホ	後園遺跡群	前橋市後園町	-	-	塙跡、別に5段所の遺構跡	-
キ	都筑山遺跡遺跡群	前橋市宮地町	-	-	塙。都筑所の遺構跡	塙+宅地が長い所で剥がれる。
ク	下弘鳥遺跡複数	前橋市下弘鳥町	-	-	塙	-
ケ	阿内松原	前橋市鬼塚町	16世紀	三輪石舟	-	文献「松原私作」。
コ	鬼塚古窯遺跡群	前橋市鬼塚町	-	-	塙、4段所の遺構跡	-
サ	三会川遺跡遺跡群	前橋市古川町	-	-	塙	-
シ	高坂城	高崎市高坂町	16世紀	高坂地盤	塙、土器。JPI	-

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は区画整理事業に伴う道路予定地であり調査対象は460 m<sup>2</sup>である。調査区は東西二区画に分割されるため、西側をA区・東側をB区と呼称した。調査区のグリッドは日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第IV系に準拠し、4 mピッチの方眼を打設した。以下にグリッド基点における日本測地系と世界測地系の座標値示しておく。 日本測地系 X=41,200.000 Y=67,800.000 世界測地系 X=41,554.964 Y=68,091.829

調査方法は表土掘削・遺構確認・杭設定・遺構掘下げ・遺構精査・測量及び写真撮影の手順で実施した。表土掘削には0.45バッカホーを使用。図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行い、断面図についてはオルソフォートに変換して編集をおこなった。記録写真は35 mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種を用いて撮影を実施した。



Fig. 4 調査範囲図

#### 2 調査経過

発掘調査は表土掘削を平成26年8月7日と8日で実施した。表土掘削以降、順次調査を進めたが12日の大雨の影響により東側B区が水没したため、18日以降は西側A区を優先し調査をし、22日にA区の全景撮影を実施した。25日に入り、B区の水位が下がらないため排水ポンプを設置、その後、調査を開始し、27日に全景撮影を実施した。28日からB区溜井の調査と平行してA区埋め戻しを実施し、29日でB区の埋め戻し及び撤収作業を完了し、現地での作業を終了した。その後、9月1日より出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成を開始した。

### IV 基本層序

A区からB区の東西に位置する調査区範囲では西から東へと緩やかに傾斜した地形となっている。A区全域は現行道路及び宅地跡などの擾乱部が多くⅢ層土の残存状態が良好な南西部の調査区西壁面を掘削し観察を行い、B区はI～III層の南側壁面で観察を行った。

I 黄褐色土 (JPF6-1) 繊りや強い、粘性なし。工事用鉄鉱鉱石のための碎石層。  
II 黄褐色土 (JPF84-1) 繊りや強い、粘性あり、液限土。  
III 黄褐色土 (JPF32-1) 繊りや強い、粘性あり、液限土。AC-Sを少量含む。  
IV 黄褐色土 (JPF32-3) 繊り有り、粘性有り、液限土。白色小粒を少量含む。  
V 黄褐色土 (JPF32-5) 繊り有り、粘性有り、液限土。白色小粒を微量含む。  
VI 黄褐色土 (JPF32-6) 繊り強い、粘性なし、液限土。CL-Yを少量含む。  
VII 黄褐色土 (JPF36-6) 繊り強い、粘性なし、液限土。As-YPを少量含む。  
VIII 黄褐色土 (JPF35-2) 繊り強い、粘性なし、液限土。灰褐色の粗い砂岩を少量含む、液限有り。  
IX 黄褐色土 (JPF35-1) 繊りやや強い、粘性強い、粘性質土。白色颗粒を微量に含む。  
X 黄褐色土 (JPF36-2) 繊りやや強い、粘性やや強い、シルト質。  
XI 黄褐色粘土 (JPF36-3) 繊りやや強い、粘性やや強い、シルト質。砂粒を少量含む、液限有り。  
XII 黄褐色土 (JPF36-4) 繊りやや強い、粘性やや強い、シルト質。砂粒を中量含む、液限有り。  
XIII 黄褐色土 (JPF37-1) 繊りやや強い、粘性やや強い、液限土。  
XIV 黄褐色土 (JPF37-2) 繊り強い、粘性やや強い、液限土。

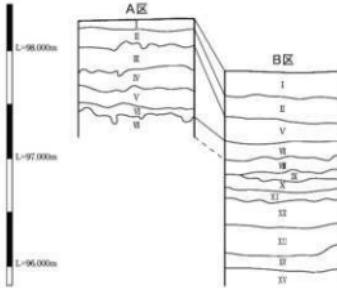


Fig.5 基本層序

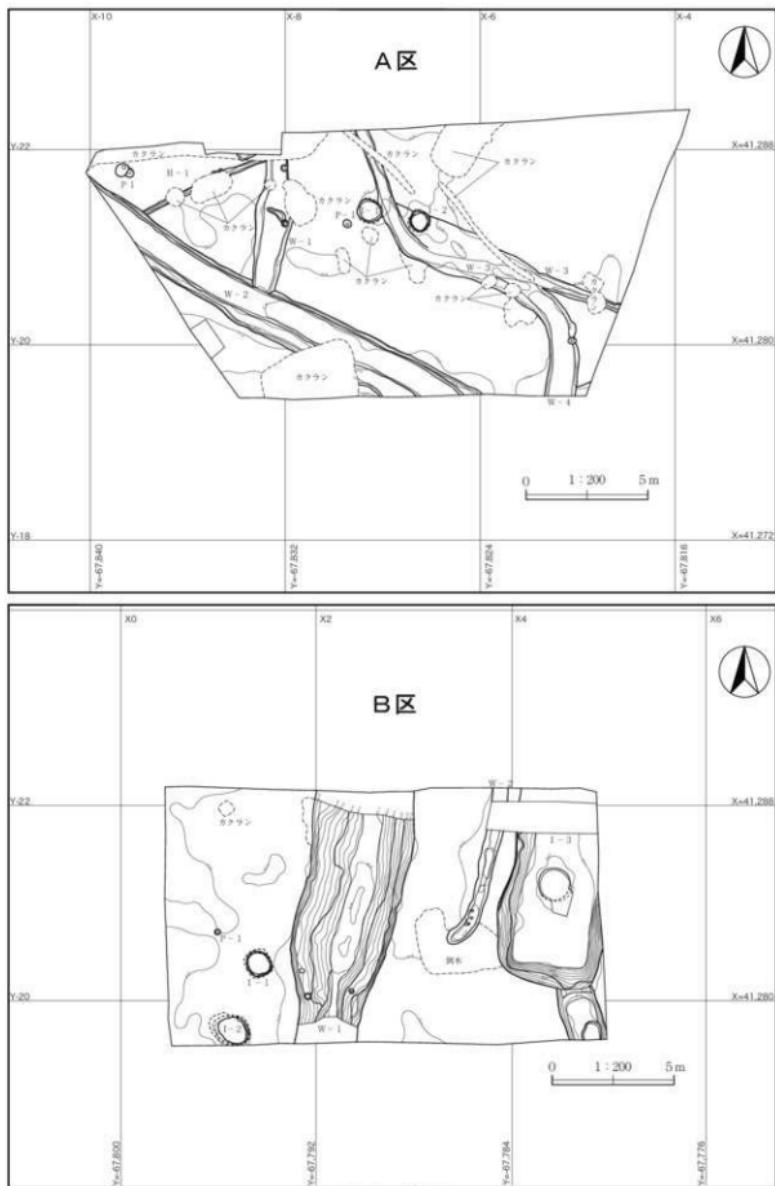


Fig. 6 全体図

## V 遺構と遺物

### 1 A区

A区では堅穴住居跡1軒、溝4条、井戸2基、ピット1基を検出した。大半の遺構は、基本土層V層下位の確認面で検出できたが、調査区の中央から南東にかけては、当初確認面とした基本土層III層下位において、土器片を包含する状況を確認した。しかし、当該地点は、植物の根跡が多く、その攪拌によるためか、遺構検出は困難な状況であった。そのため、ベルトを設定し、土層の確認をしながら基本土層VI層まで掘り下げたところ、W-4・W-5・I-1・I-2を検出した。

#### (1) 堅穴住居跡

##### H-1号住居跡 (Fig. 7, PL. 2)

位置 X-10~-9, Y-22 主軸方向 N-65°-E 規模 住居の南西部を一部検出。東西軸(6.94)m、南北軸(2.90)m、壁高(0.06)m 面積(18.24)m<sup>2</sup> 床面 起伏があるが、全体的に良く縮まっている。貼床は確認できない。重複 W-2と重複し、新旧関係は本遺構がW-2より古い。カマド 調査範囲内では検出できません。柱穴 南壁面から2.15m内側の床面において柱穴と推定されるP1を検出した。規模は長軸0.58m、短軸0.50m、深さ0.39mである。貯蔵穴 北西部の壁周溝脇に掘り込みを検出した。規模は長軸(0.75)m、短軸(0.40)m、深さ(0.26)mである。しかし、遺物の出土はなく、上端部は攪乱により削平を受けているため、貯蔵穴であるかは不明である。壁周溝 住居の南壁際で検出した。幅0.20m、深さ0.07mである。出土遺物 覆土中から土師器壺・壺の破片が少量であるが出土した。しかし、小片であるため図示にはいたらなかった。なお、土師器壺・壺は長胴化以前の球胴壺が主体をしめる。時期 出土遺物や覆土にAs-C混土が含まれることから、古墳時代に帰属すると思われる。備考 遺構の大部分は調査区外なので全容の確認はできなかった。住居の北側は現在の道路下であるため、削平の影響を受けており、床面の残存状態は悪い。

#### (2) 溝

##### W-1号溝 (Fig. 7, PL. 2)

位置 X-8~-7, Y-21~-19 主軸方向 N-6°-W 規模 長さ(4.68)m、幅1.20m、深さ0.14m 形状等 北から南へ走向する。断面は弧状を呈する。出土遺物 覆土から土師器壺、陶器鉢の破片が少量出土した。しかし、小片であるため図示にはいたらなかった。時期 出土遺物から近世以降と考えられる。備考 W-2の中段の高さや覆土の類似、接続点付近から幅が広がることを踏まえると合流すると考える。

##### W-2号溝 (Fig. 8~10, PL. 2~3)

位置 X-11~-5, Y-21~-19 主軸方向 N-118°-E 規模 長さ(17.31)m、上幅2.31m、中段1.20m、下幅0.90m、深さ0.30m 形状等 北西から南東へ走向する。断面は台形を呈する。重複 H-1と重複し、本遺構がH-1より新しい。出土遺物 溝南側の覆土中にて遺物が多量に出土している。土師器壺・壺の破片が多く、石製模造品、須恵器・陶器の破片が少量出土している。須恵器蓋1点(1)・壺1点(2)、土師器壺1点(3)・壺1点(4)、石製模造品2点(5・6)を図示する。なお、土師器・須恵器の時期は5世紀後半から6世紀前半を主体としているが溝の時期を示すものではない。時期 出土遺物やW-1の関連性から近世以降と考えられる。備考 断面の観察によれば改修に伴い新旧の二時期分けられる。中段より下位に当初の形態が残り、改修後は幅が広がり、W-1と合流すると考える。

##### W-3号溝 (Fig. 8, PL. 3)

位置 X-8~-5, Y-22~-20 規模 長さ(14.10)m、幅0.69m、深さ0.15m 形状等 北から湾曲

し東へ走向する。断面は弧状を呈する。重複 W-4、I-1と重複しており、新旧関係は本造構よりW-4は古く、I-1は新しい。出土遺物 溝の湾曲部に土師器壊・壺の破片が集中して出土しているため、図上に位置を記録しながら遺物を取り上げた。土師器壊2点(1・2)、陶器火鉢1点(3)、砥石1点(4)を図示する。なお、土師器・須恵器の時期は5世紀後半から6世紀前半を主体としているが溝の時期を示すものではないと考えられる。時期 出土遺物とから近世以降と考えられる。備考 W-4号溝との重複部にAs-Bの可能性がある軽石粒が2次的に堆積している。

#### W-4号溝 (Fig. 8, PL. 3)

位置 X-7～-5、Y-21～-19 規模 長さ(11.68)m、0.81m、深さ0.12m、形状等 西から湾曲し南へ走向する。断面は弧状を呈する。重複 W-3、I-2と重複しており、新旧関係は本造構よりI-2が古く、W-3が新しい。出土遺物 覆土から土師器壊・壺、砥石、瓦、陶器が出土している。しかし、小片のため図示にはいたらなかった。時期 出土遺物から近世以降と考えられる。

#### (3) 井戸

##### I-1号井戸 (Fig. 7, PL. 3)

位置 X-8、Y-21 規模 長軸1.04m、短軸0.94m、深さ(0.90)m 形状等 平面形は円形、断面は袋状を呈す。重複 W-3と重複しており、新旧関係は本造構がW-3より新しい。出土遺物 覆土から土師器壊・壺の破片を少量であるが出土した。しかし、小片のため図示にはいたらなかった。時期 古墳時代後期を示す遺物を出土しているが、W-4号溝跡との新旧関係より、近世以降と考えられる。備考 掘削深度と湧水の問題で底面の確認は行えなかった。

##### I-2号井戸 (Fig. 7, PL. 3)

位置 X-7、Y-21 規模 長軸0.88m、短軸0.83m、深さ(0.70)m 形状等 平面形は円形、断面は袋状を呈す。重複 W-4と重複しており、新旧関係は本造構がW-5より古い。出土遺物 覆土から土師器壊・壺の破片、陶器鍋を少量であるが出土した。しかし、小片のため図示にはいたらなかった。時期 出土遺物とから近世以降と考えられる。備考 掘削深度と湧水の問題で底面の確認は行えなかった。

#### (4) ピット

##### P-1号ピット (Fig. 8, PL. 3)

位置 X-8、Y-21 規模 長軸0.34m、短軸0.32m、深さ0.42m 形状等 平面形は円形、断面はU字状を呈する。出土遺物 遺物の出土はなし。時期 不明。

## 2 B区

B区では基本層序V層下を確認面とし、溝2条、井戸3基、ピット1基を検出した。

#### (1) 溝

##### W-1号溝 (Fig. 9, PL. 5)

位置 X-1～3、Y-22～-19 主軸方向 N-9°-W 規模 長さ(10.65)m、南端約1.90m付近から溝が拡幅している。上幅2.47m、中幅1.09m、下幅0.48m、深さ0.88m、拡幅部 上幅4.08m、中幅2.00m、下幅0.76m、深さ1.20m 形状等 南から北へ走行する。断面は台形を呈する。出土遺物 拡幅部境界の西側中段から陶器徳利を出土した。しかし、小片のため図示にはいたらなかった。時期 出土遺物から近世以降と考えられる。備考 南側は埋土状態が良かったが、拡幅部に入ると埋土の上層部から中層にかけて昭和の廃

棄物が埋まっていた。

#### W-2号溝 (Fig. 9, PL. 4)

位置 X 3、Y - 22 ~ - 20 主軸方向 N - 10° E 規模 長さ (6.87) m、幅 0.68 m、深さ 0.09 m、形状等 南から北へ走向する。断面は弧形を呈する。出土遺物 遺物の出土はなし。時期 不明。

#### (2) 井戸

##### I-1号井戸 (Fig. 8・10, PL. 4・6)

位置 X 1、Y - 20 規模 長軸 1.06 m、短軸 0.96 m、深さ 1.16 m 形状等 平面形は円形、断面は袋状を呈す。出土遺物 覆土からカワラケ、陶器培塿、宝塚印搭九輪部等を出土し、カワラケ 1 点 (1)、陶器培塿 1 点 (2)、宝塚印搭九輪部 1 点 (3) を図示する。時期 出土遺物からは近世以降と考えられる。備考 試掘調査で検出されている。

##### I-2号井戸 (Fig. 8・10, PL. 4・6)

位置 X 1・2、Y - 19 規模 長軸 1.36 m、短軸 1.03 m、深さ 1.38 m 形状等 平面形は梢円形、断面は袋状を呈す。出土遺物 覆土から砥石 1 点出土。砥石 (1) を図示する。時期 出土遺物から近世と考えられる。

##### I-3号井戸 (Fig. 9・10, PL. 5・6)

位置 X 3・4、Y - 22 ~ - 19 規模 本体部 長軸 (8.21) m、短軸 上幅 4.21 m、中段 3.51 m、下幅 3.10 m、深さ 1.25 m 形状等 方形で断面は逆台形を呈する。出土遺物 覆土から磁器鉢、瓦、陶器皿、鍋を少量だが出土、磁器鉢 1 点 (1)、瓦 1 点 (2) を図示する。時期 出土遺物からは近世以降と考えられる。

備考 北側は調査区外なので全容は確認できないが、南側では本体の端部を確認できることから方形の池と思われる。本体底部には穿孔部、南東部コーナーの中段には水口状の窪みを検出した。なお、南東部も調査区外なので全容の確認できなかった。穿孔部の規模は直径 1.28 m、本体底部からの深さ 0.72 m、平面形状は円形、断面は袋状を呈している。また、本体底部である基本土層 XV を掘り抜き、さらに下層の砂質土層まで到達していることから、湧水を目的としたものと想定できる。水口状部分の規模は長さ (2.50) m、上幅 1.59 m、下幅 1.10 m、深さ 0.42 m で、断面形状は逆台形である。壁際には長さ (0.79) m 幅 0.80 m、底面からの深さ 0.44 m の箱状の窪みが確認できる。また、本体部と窪みの間は 10cm 程高まり、本体部の水位がこの高さを超えた時、窪みへ流出したものと考える。本遺構は底面に湧水を助長する孔を有することから、「溜井」と位置づける。

#### (3) ピット

##### P-1号ピット (Fig. 9, PL. 4)

位置 X 0・1、Y - 20 規模 長軸 0.24 m、短軸 0.23 m、深さ 0.18 m 形状等 平面形は円形、断面は U 字状を呈する。出土遺物 遺物の出土はなし。時期 不明。

Tab. 2 出土遺物観察表

A区W-2

No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・無形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	壁上	切妻型	—	(13.0)	—	1.27	白・灰・茶色斑駁	無焼	無焼	馬蹄形断面 (2.0m)、表面ヨリオリテ落葉土と手取れハリナリ剥離。	1.27m、壁上部の有無不明。
2	壁上	切妻型	—	—	14.0	1.10	白色灰	無焼	無焼	馬蹄形断面 (2.0m)、表面ヨリオリテ落葉土と手取れハリナリ剥離。	14.0m、壁上部の有無不明。
3	壁上	切妻型	—	(13.0)	丸底	0.60	青磁土 (2.0m)	自然	自然	馬蹄形断面 (2.0m)、表面ヨリオリテ落葉土と手取れハリナリ剥離。	13.0m、壁上部の有無不明。
4	壁上	切妻型	—	—	4.5	0.37	白・灰・茶色斑駁	無焼	無焼	馬蹄形断面 (2.0m)、表面ヨリオリテ落葉土と手取れハリナリ剥離。	4.5m、壁上部の有無不明。
No	出土位置	種別	断面	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	断面、成・無形、文様等の特徴	現存状況・備考
5	壁上	切妻型	—	1.0	0.0	0.10	無焼	—	—	馬蹄形断面 (2.0m)、表面ヨリオリテ落葉土と手取れハリナリ剥離。	1.0m、壁上部の有無不明。
6	壁上	切妻型	—	1.5	0.05	0.05	青磁土 (2.0m)	—	—	馬蹄形断面 (2.0m)、表面ヨリオリテ落葉土と手取れハリナリ剥離。	1.5m、壁上部の有無不明。

## A区W-3

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	地成	色調	图形、成・類形、文様等の特徴	採取状況・備考	
1	上部	土器	口付	13.0cm	11.0cm	5.5cm	(1) 頂部丸、脚付、 (2) 扁平	高層	褐色	内面に網目模様。脚部有り。底付フタ有り。	山側・標高770m付近。	
2	上部	土器	口付	13.0cm	11.0cm	5.5cm	(1) 圓	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	山側・標高770m付近。	
3	中部	土器	口付	—	—	—	脚付	中層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	全体下部・標高750m付近。	
No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	地成	色調	图形、成・類形、文様等の特徴	採取状況・備考	
4	底土	土器	口付	9.0cm	7.5cm	2.5cm	脚付	—	—	LH	表面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	全体上部・辛沢川右岸。

## A区一號

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	地成	色調	图形、成・類形、文様等の特徴	採取状況・備考
1	底土	土器	口付	16.0cm	10.0cm	6.5cm	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	山側・標高770m付近。
2	上部	土器	口付	—	—	—	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	全体上部。

## B区 I - 1

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	地成	色調	图形、成・類形、文様等の特徴	採取状況・備考
1	底土	土器	口付	16.0cm	10.0cm	6.5cm	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	山側・標高770m付近。
2	上部	土器	口付	—	—	—	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	全体上部。

## B区 I - 1

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	地成	色調	图形、成・類形、文様等の特徴	採取状況・備考
1	底土	土器	口付	16.0cm	10.0cm	6.5cm	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	山側・標高770m付近。
2	底土	土器	口付	—	—	—	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	全体上部。

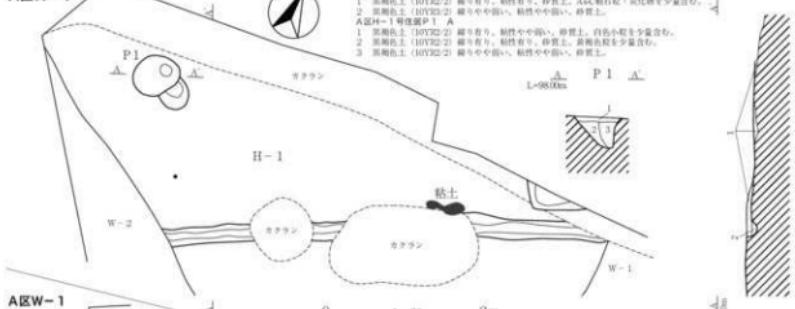
## B区 I - 2

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	地成	色調	图形、成・類形、文様等の特徴	採取状況・備考
1	底土	土器	口付	16.0cm	10.0cm	6.5cm	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	山側・標高770m付近。

## B区 I - 3

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	地成	色調	图形、成・類形、文様等の特徴	採取状況・備考
1	底土	土器	口付	16.0cm	10.0cm	6.5cm	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	山側・標高770m付近。
2	底土	土器	口付	—	—	—	口・底・脚付	高層	褐色	内面に網目模様。口付有り。底付フタ有り。	全体上部。

## A区H-1



## A区W-1

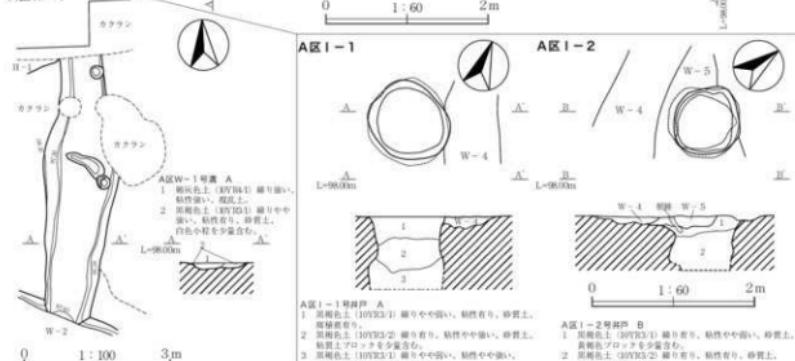
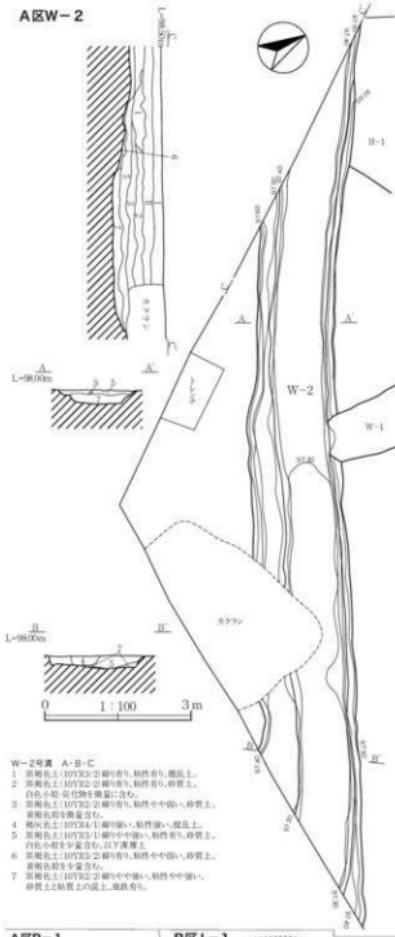


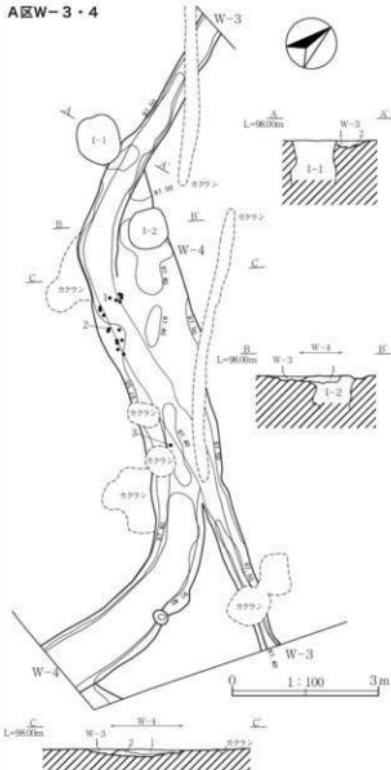
Fig. 7 A区H-1号住居跡、W-1号溝、I-1・2号井戸

A区W-2



- W-2号溝 A-B-C  
 1 黒褐色土(10YR2/2)細砂有り、粘性有り、堅硬土。  
 2 黑褐色土(10YR2/2)細砂有り、粘性有り、砂質土、白色小粒、灰化色を微認する。  
 3 黑褐色土(10YR2/2)細砂有り、粘性やや弱い、砂質土。  
 4 黑褐色土(10YR3/1)細砂有り、粘性強め、堅硬土。  
 5 黑褐色土(10YR3/1)細砂の中強め、粘性有り、砂質土、白色小粒を多量含む。  
 6 黑褐色土(10YR2/2)細砂有り、粘性やや弱い、砂質土。  
 7 黑褐色土(10YR2/2)細砂の中強め、粘性有り、砂質土、粘性有り、砂質土の混在、斑状有り。

A区W-3・4



W-3号溝 A-B-C

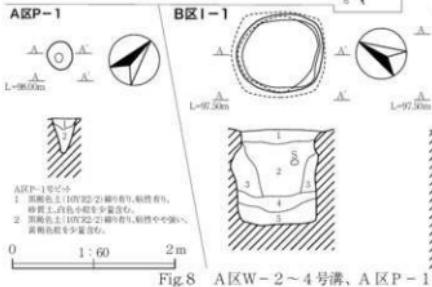
- 1 黒褐色土(10YR2/1)細砂有り、粘性有り、砂質土、新規岩鉆粉量多、白色小粒を少量含む、粘性有り。  
 2 黑褐色土(10YR2/1)細砂の中強め、粘性やや弱い、砂質土、A区の右壁面に砂を含む。

W-4号溝 B-C

- 1 黑褐色土(10YR2/1)細砂の中強め、粘性有り、砂質土、白色小粒を少量含む、粘性有り。

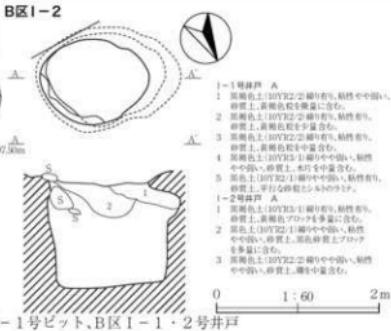
- 2 黑褐色土(10YR2/2)細砂の中強め、粘性有り、砂質土、新規岩鉆粉量多含む。

A区P-1



- A区P-1号井戸  
 1 黑褐色土(10YR2/2)細砂有り、粘性有り、砂質土を多量含む。  
 2 黑褐色土(10YR2/2)細砂有り、粘性やや弱い、新規岩鉆粉量少含む。

B区I-2



I-2号井戸 A

- 1 黑褐色土(10YR2/2)細砂有り、粘性有り、砂質土、新規岩鉆粉量多含む。

- 2 黑褐色土(10YR2/2)細砂の中強め、粘性有り、砂質土、新規岩鉆粉量多含む。

- 3 黑褐色土(10YR2/2)細砂有り、粘性有り、砂質土、新規岩鉆粉量多含む。

- 4 黑褐色土(10YR2/2)細砂の中強め、粘性やや弱い、砂質土、新規岩鉆粉量多含む。

- 5 黑褐色土(10YR2/1)細砂の中強め、粘性有り、砂質土、新規岩鉆粉量少含む。

- 6 黑褐色土(10YR2/2)細砂の中強め、粘性有り、砂質土、新規岩鉆粉量少含む。

- 7 黑褐色土(10YR2/2)細砂の中強め、粘性有り、砂質土、新規岩鉆粉量少含む。

Fig.8 A区W-2～4号溝、A区P-1号井戸、B区I-1・2号井戸

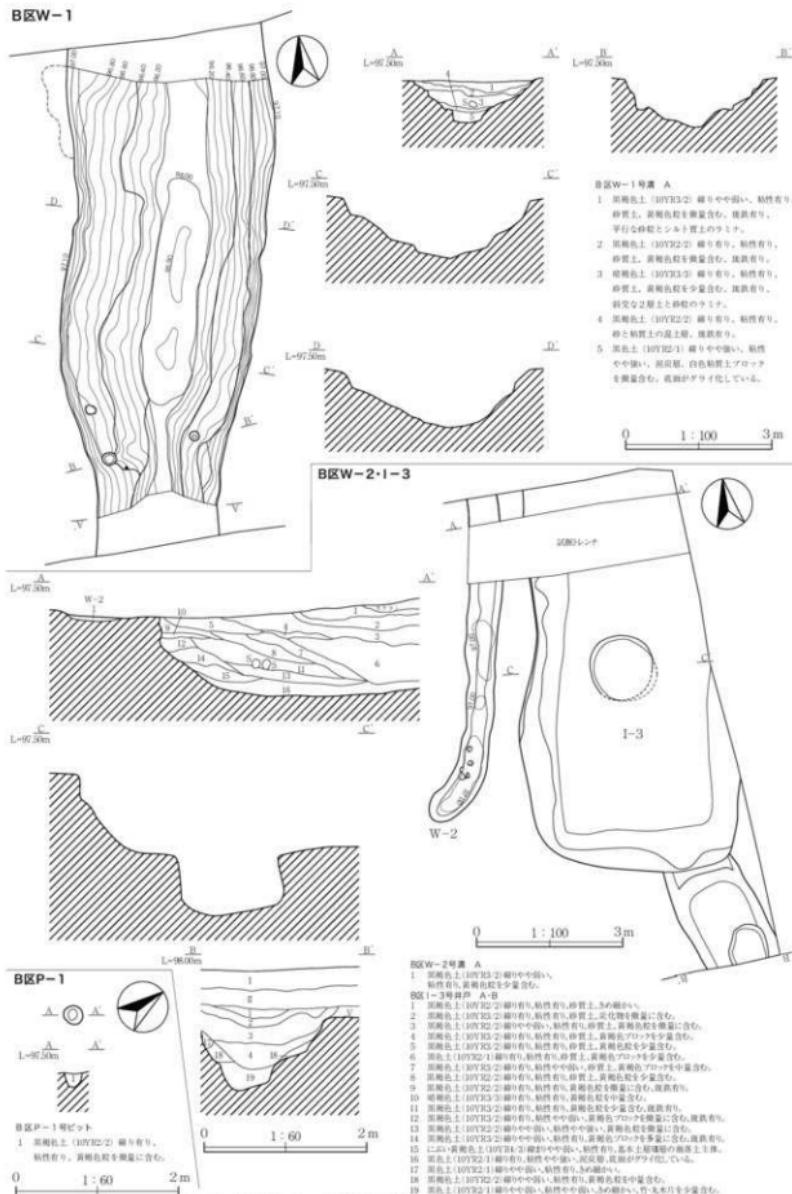
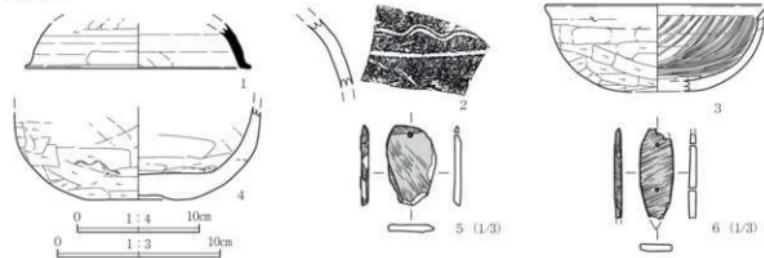
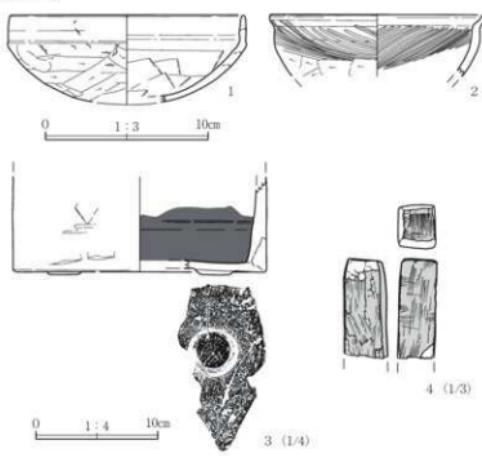


Fig. 9 B区W-1・2号溝、B区I-3号井戸、B区P-1号ピット

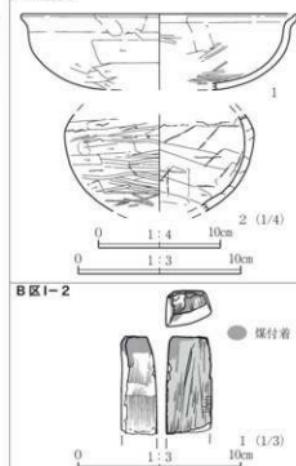
A区W-2



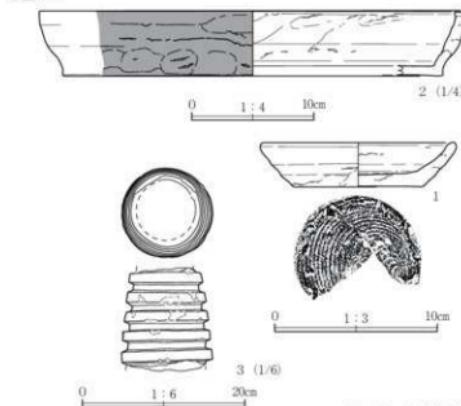
A区W-3



A区道場外



B区I-1



B区I-3

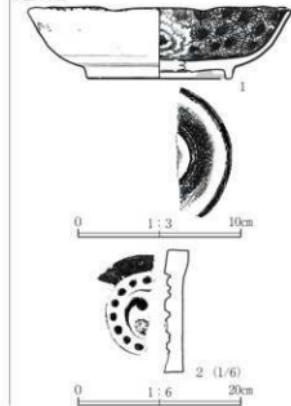


Fig.10 出土遺物

## VI 発掘調査の成果と課題

今回の六供遺跡群 No. 8 では、古墳時代の住居跡 1 軒、近世の溝 5 条、井戸 4 基、溜井 1 基、時期不明のピット 2 基を検出した。ここでは、立地環境や遺構の構造から考察を加え、まとめとしたい。

**住居跡について** A 区 H - 1 号住居は部分的な検出と出土遺物が少ないとから時期を古墳時代としたが、近隣遺跡である六供遺跡群 No. 5・6・7 で検出されている住居跡の形状と比較すると、5 世紀後半から 6 世紀初頭の形状に類似する。特徴としては、1 邊が 6 m から 7 m 弱の正方形で、壁周溝が巡り、四隅で内側へ 1.6 m から 2 m の位置に柱穴、東壁中央付近にカマド、南東隅の壁寄りに貯蔵穴を付随していることがあげられる。また、重複関係にある A 区 W - 2 号溝からはこの時期の特徴をもつ土器（2~4）を出土しており、溝の開削や流水による浸透で住居から流出したものを含むと考えられ、5 世紀後半から 6 世紀初頭に帰属すると想定できる。

**溝について** A 区 W - 2 号溝と B 区 W - 1 号溝は、昭和 23 年米軍による撮影された空中写真で溝に沿うような区画を確認することができる。B 区 W - 1 号溝は南北方向で約 64 m、東西方向約 35 m の長方形の区画を形成し、西側の中央付近に位置している。この区画は迅速測図に記載されている屋敷と符合する。周間に溝が巡り、敷地には西側中央に池があり、この池が発掘調査された「溜井」である。それを境に北側は宅地、南側は畠地に分かれる。この様相は小規模ながらも環濠屋敷を想像させられる。前橋の南部には、昭和 46 年の土地改良事業が実施される以前まで、環濠屋敷が多く存在している。本遺跡周辺（Fig. 3）でも上棚島屋敷、福島屋敷などが確認されている。A 区 W - 2 号溝においても旧家を囲む溝の一画であり、同じ性格と考えられる。

**井戸について** 本調査では B 区で検出した井戸を底部確認のため遺構の半裁を行っており、遺構に対する地山の層位の観察と大雨による地下水位上昇のため各層位からの湧水の湧出状況を視認できた。X 層土は砂質土で透水性に優れ、XI から XII 層土はシルトと砂粒の混土層で透水性を有しており、ここが帶水層（宿水層）である。XIII・XIV 層土は粘質土であるため難透水層である。4 基の井戸は共通して、XII 層土に掘り込みは認めらないため粘土探掘土坑ではない。X 層土付近ではオーバーハングしており、地下水の湧出や滞留による浸透が原因と考えられる。区画整理事業が始まる前までは畠作地として利用されていることを考慮すれば、近世以降に掘られた「野井戸」<sup>(2)</sup> と想定できる。また、I - 3 号井戸とした溜井は米軍空中写真から本体部を長軸 9 m、短軸 4.2 m と水口状部分は畠地の方へ 3 m 程伸びを推定できる。湧水源は底部に 1 基確認しているが、周間に溝へ繋がる掘り込みは確認できないため、規模に対し安定した水量を確保できるか疑問がかかる。推察だが、並行している B 区 W - 1 号溝の南側には堰のような痕跡が見られる。堰を設け溝の水位を上昇させることによって、地山の透水性を利用し、湧出を促し水位を維持していたと考えられる。

**出土遺物について** A 区 W - 2 号溝から頁岩製石模造品（5）を出土している。出土事例は県内において東毛に多い傾向がある。前橋市大屋敷遺跡、伊勢崎市原之城遺跡、太田市舞台 A・B・D 遺跡、太田市中西田遺跡などで確認されている。

### 註

(1) 収口一氏の古墳時代後期の土器の編年（坂口 1986）を援用すると、おおむね第Ⅲ～Ⅴ期に比定できる。

(2) 「野井戸」は田畠の脇に掘削した灌作の水道り用井戸のこと、1697 年に発行された『農業全書』を契機にひろまつたとされる。

### 参考文献

前橋市埋文化財発掘調査会 1994 「大屋敷遺跡Ⅱ」

坂口 一 1986 「古墳時代後期の土器の編年－三ツ寺遺跡を中心とした土器

前橋市教育委員会 2009 「六供遺跡群 No.5」

器と亂器の並行関係－」『群馬文化』第208号 群馬県地域

前橋市教育委員会 2009 「六供遺跡群 No.6」

文化研究講演会

前橋市教育委員会 2013 「六供遺跡群 No.7」

難方 正樹 2003 「ものが語る歴史 8 井戸の考古学」 同成者

群馬県教育委員会 1988 「群馬県の中世城館跡」

秋田 雄毅 2010 「ものと人間の文化史150 井戸」 法政大学出版局

前橋市編さん委員会 1971 「前橋市史 第一巻」 前橋市

社団法人地盤工学会 2008 「地下水を知る」 丸善



A区表土掘削（西から）



A区作業風景（南東から）



A区遺構検出状況（東から）



A区遺構検出状況（北西から）



B区排水作業（西から）



A区調査区全景（北西から）



B区調査区全景（東から）



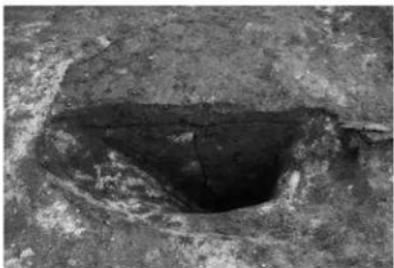
B区I-3遺構検出状況（南から）



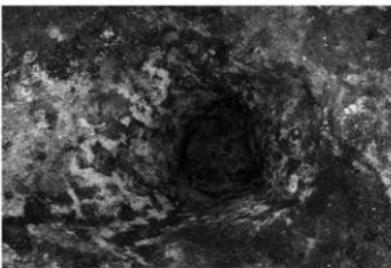
A区 H-1 断面（東から）



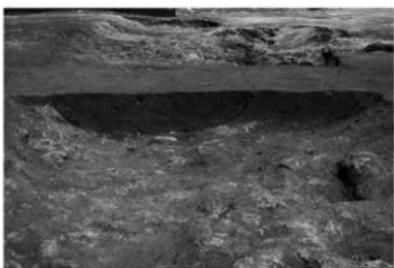
A区 H-1 全景（南から）



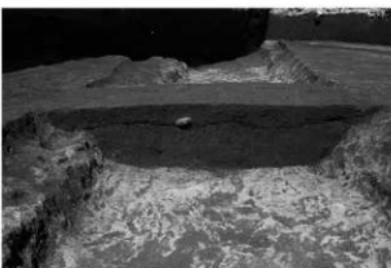
A区 H-1 P1断面（南から）



A区 H-1 P1全景（南から）



A区 W-1 断面（南から）



A区 W-2 断面A（南東から）



A区 W-2 断面B（南東から）



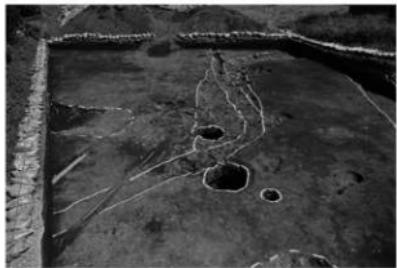
A区 W-1・2 全景（北西から）



A区W-3・4断面（東から）



A区W-3遺物出土状況（南東から）



A区W-3・4全景（西から）



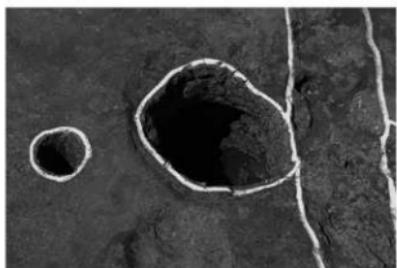
A区基本土層（東から）



A区I-1断面（南から）



A区I-2断面（南から）



A区I-1・P-1全景（南から）



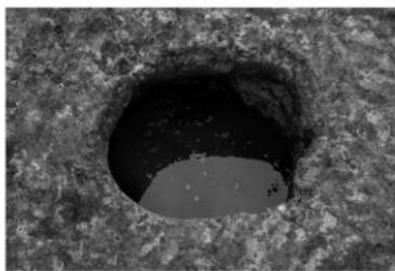
A区I-2全景（南から）



B区 I - 1 断面 (西から)



B区 I - 2 断面 (北東から)



B区 I - 1 全景 (西から)



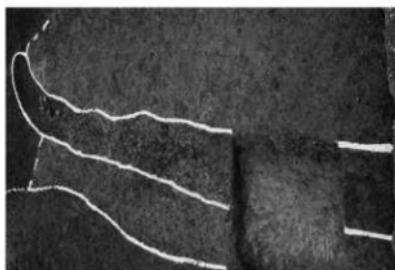
B区 I - 2 全景 (西から)



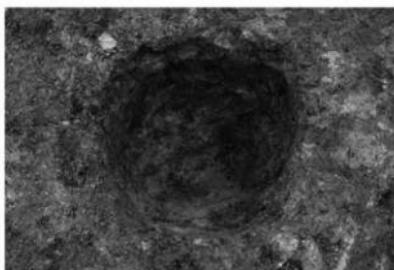
B区 I - 1 底面確認 (南から)



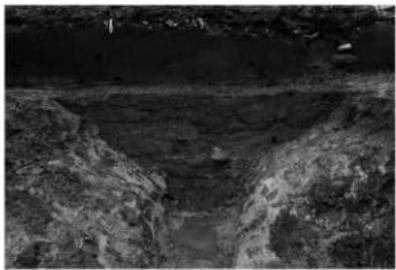
B区基本土層 (東から)



B区W - 2 全景 (北から)



B区P - 1 全景 (南から)



B区W-1断面 (北から)



B区W-1全景 (北から)



B区作業風景 (北から)



B区I-3全景 (北から)



B区I-3全景 (南から)



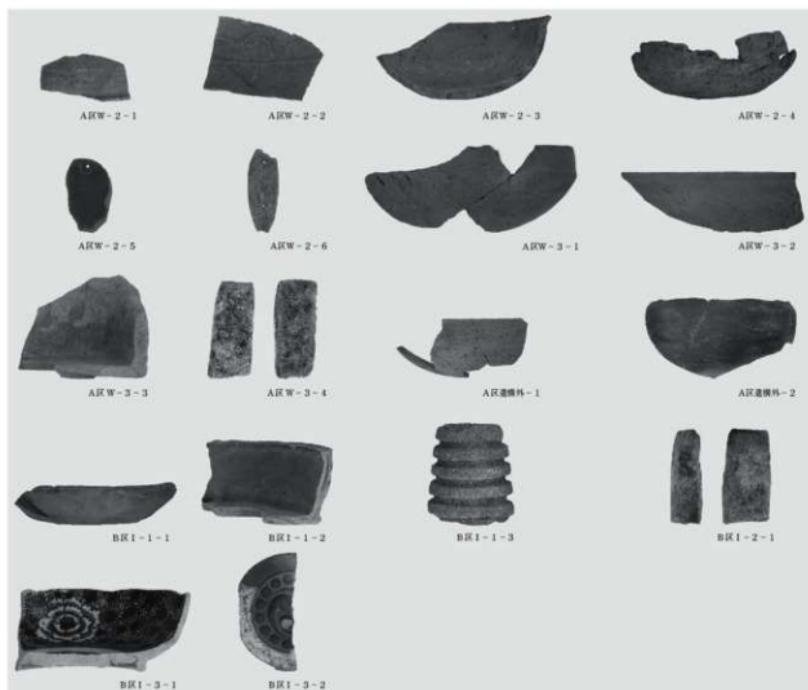
B区I-3断面B (南から)



B区I-3断面B (北から)



B区I-3水口状部底面確認 (北から)



## 報告書抄録

カタカナ	ロックイセキグンナンバーハチ
書名	六供遺跡群No.8
副書名	前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	藤坂和延・前田和昭・岡野 茂
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2014年12月19日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		所 在 地	市町村	遺跡番号	北 緯			
ロックイセキグンナンバーハチ 六供遺跡群 No.8 (前橋市0282遺跡)	マツバシヨウ ロックイセキ 前橋市六供町299-2 (はか)	102021	26E57	36° 22'11" N 139° 4' 39" E	20140804 20140829	460m <sup>2</sup>	前橋都市計画事業 六供土地区画整理事業	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
ロックイセキグンナンバーハチ 六供遺跡群 No.8 (前橋市0282遺跡)	集落 その他	古墳時代 近世	住居跡 溝 井戸 ピット	1基 5条 5基 2基	須恵器・土師器 石製品 陶器			

### 六供遺跡群 No.8

(前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)

2014年12月12日 印刷  
2014年12月19日 発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課  
〒371-0018 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4  
TEL 027-231-9331

編集 技研コンサル株式会社  
印刷 朝日印刷工業株式会社